

第1回 住民説明会議事要旨

平成18年11月13日

中国地方整備局 鳥取河川国道事務所

第1回 千代川の今後を考える住民説明会(鳥取会場) 議事要旨

日 時：平成 18 年 8 月 10 日 19:00～20:30

場 所：県民文化会館 第2会議室

参加者：20名

表 - 1 意見とその対応(その1)

項目	意見	当日の事務局等の対応
流下断面の確保	行徳～古海区間は、狭窄区間であり、拡幅する必要がある。	河道の掘削で対応可能であると考えているが、再度チェックする。
堰の改築	円通寺の大口堰は、斜め堰であり、右岸側に水勢が集中し危険な状態にある。その上流は土砂が堆積して樹木が繁茂し危険である。また、稚アユの遡上を著しく阻害している。改修の必要がある。昔は直角の堰で問題はなかった。	皆さんの意見を頂き、また、関係機関の調整を図り、今後30年間で改築が必要となれば、実施する。
護岸整備	漁協前の災害復旧工事の護岸は、他地域の御影石を利用しているが、殿ダムの水郷地点の天然石を利用してはどうか。大きな瀬替えは土のうで行ったが、その撤去など工事後の処理に問題がある。	川づくりに関して、漁協の組合長、理事などを含めて意見、指導を頂き、可能な限り生態系に配慮したもとしている。
洪水の阻害	千代川の鉄道橋は、橋脚の影響で洪水時に阻害となっている。橋桁も低い。	
森林の保全	安全な流下のため、拡幅、堤防の築堤などの河川工事だけでなく、森林を育成して保水力を高めることが長期的にも治水、利水、環境にメリットがあり、そういう方法をお願いしたい。	森林の保全は全国的にも注目されているため、関係機関と連携しながら行っていきたい。
森林の保水力	鳥取県の国有林の林野面積は多いが、戦後、スーパー林道のため、ブナを伐採し、杉や檜を植林したため、保水力が低下した。水質も悪化した。	
整備の優先順位	千代川は危険な箇所がたくさんあるが、整備の優先順位は合理性をもって決定していただきたい。	20～30年間で実施するものについては、人口、資産、費用対効果を考慮して決定したい。
水辺の国勢調査	国勢調査によると、回遊魚の遡上の障害となる堰は少ないとあるが、アユ資源回復調査業務報告では、河床への砂泥の沈積でアユ生息阻害があるとなっている。水辺の環境整備は、生態系、自然の摂理を考えて欲しい。千代川のアユは、アユ河川になっていたが、今は面影がない。	国勢調査は、全国統一のマニュアルに基づいて行っている。指摘を受け、今後調査に生かしたい。
産卵河床の劣化	源太橋下流において、鳥取市の水道管を埋設してれているが、蛇籠形式のため、砂利が固まり産卵、ふ化が困難となっている。工作物の許可をなぜ行ったか。	
整備方式	治水工事を行う場合は、水生生物を保護できる形で進めていただきたい。魚の減少は農業も原因の一つであるが、取水工事も一因であり、良好な生息環境の保全のために専門家の意見も参考にしていきたい。	瀬と淵を人工的に造るなど、生物が生息可能なような河川空間の創出のために、学識者、地域の方々に聞きながら、実施したい。
生息環境	護岸に石を利用することは良いが、河床をならすことは良くない。	稲常橋の上流で木工沈床を設置している。今後モニタリングしながら工事に生かす。
河川敷公園	道の駅の裏側に設置した河川敷公園は見通しが悪く、利用が少ない。	皆様の意見を頂き、悪いところは改善していきたい。駐車場を造る予定である。
水利用	山城川および大井手川流域の受益面積は過去より30%程度減少しているが、水利権は変わっていない。変更すべきである。	受益面積は減少しているが、取水口の関係などから水量は減らせない。今後、慣行水利を許可水利化していきたい。

表 - 1 意見とその対応（その2）

項目	意見	当日の事務局等の対応
特別水利、発電所	最近の保水力の低下などを考慮して、用瀬発電所、竹市発電所など特別水利は見直す時期ではないか。半永久的ではない。	
浸水区域の制限	洪水時の浸水区域について、建築制限など行政間で調整していただきたい。	意見としていただく
洪水時の補償	洪水時の浸水補償は、地域全体でカバーする制度はできないか	意見としていただく
補助金制度	水辺で子供たちが遊べるような環境作りを考えているが、補助金に関する情報をいただきたい。	環境整備事業費があり、申請して認定していただく。県も同様な事業がある。
懇談会	懇談会は情報公開で行っていただきたい。	マスコミ、一般の方にも記者発表して、オープンで実施している。

第 1 回 千代川の今後を考える住民説明会(用瀬会場) 議事要旨

日 時：平成 18 年 8 月 9 日 19:00～20:30

場 所：用瀬町民会館 中会議室

参加者：58 名

表 - 2 意見とその対応

項目	意 見	当日の事務局等の対応
工事期間	用瀬地区の用地買収区間の工事は何年で完成するか。	現段階では回答できない。
整備計画	省庁協議は整備計画に関するものか。実行については改めて協議するのか。	省庁協議は計画に関する意見であり、予算とは無関係である。予算は、予算要求を行う。
	河原町の出合橋上流から八東川にかけて、原野的な箇所があるが、河川整備計画ではどうなるのか。	護摩土手などがあり、学識経験者、地元の皆さんの意見を聞き、整備が急ぐ必要があれば、整備計画の中で整備する。
樹木の繁茂による阻害	河川の状況が変化してきている。アシ、ヤナギなどが多く、川の流れを阻害している。	河道の流下能力をチェックして、ネックとなっている区間は取り除く。
二つ岩の対策 露岩の掘削	用瀬地区の二つ岩を除去した理由は。	後日回答する。
	用瀬地区の堆積土砂は浚渫されてきれいになったが、露岩も掘削されている。掘削の理由は。地元の意見も尊重していただきたかった。	用瀬検討委員会での意見をもとに、流下断面を確保するために全体的に岩を縮小した。検討委員会のメンバーは前町長など地元代表の方々も参加されていた。今後も地元の意見を反映させたい。
瀬と淵の保全	河川には瀬と淵が重要であるが、河川整備時には人工的に造るのか。	学識者、地元の方など千代川をよく知っている方から情報を得て、人工的に造る。
生態系の保全	千代川水系の確認種は、今後も増えるような整備をしていただきたい。河川の整備は予算をつければ可能であるが、生態系の保全は住民の協力も含めた地道な努力が必要である。	指摘通りの方式で事業を進める。
清掃、除草、ゴミ	洪水後のゴミの清掃、草取りの実施状況は。	管理区間の堤防の除草、流下の阻害となるゴミなどは撤去している。
	買収地区の除草などの管理状況は。	連絡いただければ除草を行う。
	ゴミを集積しているが、集積している理由は。	掘削する予定箇所であり、今年度中に処理する。
管理通路	美成地区の河川改修において、工事終了後に、管理通路は車両の通行が可能となるのか、遊歩道的な取り扱いになるのか	皆さんの意見を聞きながら、整備を行う。通学路として利用可能である。車の通行はもう少し時間が必要である
補修予算	水辺プラザの芝生公園の洪水後の補修予算の手当は。 千代川の賛助会員の会費の用途は。	今までは、国の予算、現在はNPO法人、地域の皆様の協力で実施している。 千代川水系の源流探検、流域圏会議のイベントなどに使用している